

あしきた町議会だより

うたせ

第12号

平成20年
1月30日発行



代表謝辞を述べる新成人



三十歳の抱負



交通安全宣言

- 12月定例議会…………… P 2
- 陳情6件を委員会へ付託…………… P 3
- 多目的広場設置の陳情を採択…………… P 4
- 鞍手町議会広報特別委員会を視察… P 5
- 一般質問（2議員）…………… P 6～7
- 町村議会広報研修会報告…………… P 8



レジオネラ菌発生の原因は

町有温泉特別会計

問 町有温泉の湯浦温泉センター、ヘルシーパーク芦北、計石温泉センターの3施設において、レジオネラ菌が発生したが、原因は何であつたか。

答 湯浦温泉センター、ヘルシーパークについては、源泉タンクが原因であつたと見ている。毎年1回、源泉タンクを清掃しているが、清掃の方法にも問題があつたと思う。

問 水質検査の回数は、県の基準があるのか。

答 県の条例で、自主定期検査を年1回以上行うとなっているので、年1回は行っている。

問 新聞によると、追跡調査の結果、被害者はいなかったと載っていたが、どういう追跡調査を行ったのか。

答 水俣保健所の指導によ



計石温泉センター

り、よく利用されている60名程を抽出して電話による調査を行ったが、誰も異常は認めなかった。潜伏期間が一週間前後であることから、被害はなかったと思われる。

問 今後の再発防止対策は。

答 県のレジオネラ症発生防止条例と保健所の指導を厳守した管理を行っていく。また、源泉タンクの清掃は経費節減のために職員で行っていたが、今後は専門業者への委託を考えている。

陳情6件を委員会へ付託

12月定例議会に6件の陳情が提出され審査の結果、所管の委員会へ付託した。

件名(要旨)	陳情者	付託先
県産木材の需要拡大についての要望書	水俣芦北地域木材需要拡大協議会 会長 木谷 勝氏	建設経済
町道川嶽線における部分改良とガードレール整備に関する陳情	代表者 市居原区長 深川昭明氏 ほか6名	〃
旧JA田浦跡地の買い上げに関する陳情について	代表者 田浦小学校PTA会長 林田新一氏 ほか29名	文教厚生
町道田川瀬戸線田川橋の改良に関する陳情	代表者 田川区長 山下勝喜氏 ほか5名	建設経済
野添集落から国道3号バス停(野添バス停)までの里道の町道認定についての陳情	代表者 小田浦7区長 谷崎輝明氏 ほか7名	〃
芦北町大字大野(本村農道、生活路)の町道認定についての陳情	代表者 大野区長 坂本富雄氏 ほか47名	〃



陳情で買い上げの要望があつた旧田浦JA跡地



鎌木 義光氏 (湯浦地区)
芦北町職員として入庁以来、39年6ヶ月の長期にわたり奉職され、平成19年3月末、建設課長を最後に退職。

人権擁護委員の推薦

可決した補正予算

会計名	補正額(増減)	補正後の総額
一般会計	1億4,226万6,000円増	105億3,679万5,000円
国民健康保険特別会計(事業勘定)	3万9,000円増	31億3,181万6,000円
国民健康保険特別会計(直診勘定)	124万5,000円増	5,914万5,000円
老人保健特別会計	2億7,120万円増	32億3,518万4,000円
介護保険特別会計	1億 582万2,000円減	18億4,289万5,000円
町有温泉特別会計	329万3,000円増	1億 818万9,000円
水道事業会計	248万6,000円増	1億3,208万9,000円

●補正予算の主な内容(一般会計)

- ・身体障害者更生医療給付委託料…………… 550万円
- ・国見地区基盤整備工事…………… 92万円
- ・地域総合整備資金貸付金…………… 1億円
- ・消防施設整備工事…………… 200万円



地域総合整備資金貸付金適用の溝部病院

12月定例議会は、12月20日に招集され、21日までの2日間の会期で開催した。上程された議案は、平成19年度一般会計補正予算ほか水道事業会計補正予算と特別会計補正予算4件、芦北町薩摩街道佐敷宿交流館条例の制定ならびに条例の一部改正4件、専決処分承認2件など15議案と議員提案による割賦販売法の抜本的改正に関する意見書の提出についてで、いずれも慎重審議の結果、原案通り可決した。

また継続審査となっていた多目的芝広場設置に関する陳情を採択とし、人権擁護委員の推薦につき意見を求める諮問1件についても原案通り答申することにした。

一般質問には、2議員が登壇し、執行部の考えをただした。

多目的広場設置の陳情を採択

文教厚生常任委員長報告

6月定例議会において、当委員会に付託され、閉会中の継続審査としておりました、多目的芝広場設置に関する陳情の審査を行いましたので、その経過と結果を申し上げます。

本件は、陳情者であります芦北町グラウンドゴルフ協会、坂口義人氏ほか、1,810名から提出されたものですが、この陳情書は田浦の岩崎埋立地に多目的芝広場の造成(グラウンドゴルフ標準コース4～6面)と付帯設備としてトイレ、倉庫、給排水設備、休憩所、植樹、駐車場などを備えた芝広場の設置に関する陳情であります。

当委員会では、関係する担当課長の出席を求め、岩崎埋立地の総合グラウンド用地としての土地購入の経緯と、今後、運動公園としての計画の推進の考えなどについて説明を受け、これを参考に慎重に審議を行いました。

各委員からは、
●グラウンドゴルフはスポーツとして、子どもからお年寄りまで幅広く普及している。全面芝生ということではなくて、いろんなスポーツのできる配置計画をつくり、計画を進めてほしい。

●芦北のサッカーチームは水俣のエコパークにある芝広場を借りて練習や大会を開催している。広い場所でフラットな芝広場ができると、大会誘致などでもできる可能性がある。

●岩崎埋立地は中心地で良い場所であるが、活用法が見出せず、現在に至っている。駅も近いし、計画次第では芦北の宝になる場所と思っているとの意見がありました。

主な質疑は、面積が4.4ヘクタールということだが、全面芝生で覆うのかとの質疑に対し、まだ白紙の状態であるので、今後計画等を詰めていきたいとの回答でした。

この件については、質疑後、討論もなく、全会一致で採択するものと決定いたしました。



岩崎埋立地

ブルーマリンあしきた跡地
2,501万円で落札

第6回臨時議会

平成19年第6回臨時議会を10月29日に開催した。上程された議案は、平成19年度一般会計補正予算、財産の取得、工事請負契約の締結3件ならびに工事請負契約の変更1件の6議案で、審議の結果、

全会一致で原案通り可決した。取得した財産は、国民年金保養センター（ブルーマリンあしきた）跡地で、総面積14,682平方メートルを2,501万円で落札した。



町が購入したブルーマリンあしきた跡地

広報特別委員会視察研修報告

11月7日 鞍手町議会広報特別委員会を研修

11月7日に鞍手町議会広報編集調査委員会の活動の状況について研修を行いました。

鞍手町議会は、「好きです鞍手町」をキャッチフレーズに議会だよりを発行し、第21回町村議会広報全国コンクールで「奨励賞」を受賞している。議会広報の先進地です。

鞍手町は福岡県の北部に位置し、人口が約18,500人で百万都市・福岡市と北九州市のほぼ中間にあり、主な特産物はブドウ(巨峰)です。

研修は、仲野議長、香原委員長をはじめ5名の委員と事務局の歓迎を受け、お互いの広報編集への取組みについて、活発な意見交換を行いました。

鞍手町議会の広報紙づくりは委員の皆さんが、編集校正、写真の配置、撮り方等について、広報研修会の講師の先生からのアドバイスを忠実に守り、いろんな問題提起をして努力をしておられます。講師は次の三つの立場から

議会広報を検証し、評価されています。

りやすくお伝えできるように頑張っています。

①議会の果たすべき報告・説明義務という観点。

②一人の住民としては知る権利が充足されているか、分かりやすいか、ということ。

③40年にわたる議会広報研究者として、また編集出版・印刷技術者としての専門的観点です。

私たちも、今回の先進地視察で勉強したことを課題として、広報紙は「ありのままに」「住民とともに」「わかりやすく」を原則に取組み、読まれる方に、議会の状況等をわか



議会広報編集の五原則

1、編集の自主性が確立していること

(内外からの編集介入を許さない体制)

●発行条例による広報および編集権の確立。編集委員の位置づけ

●議員中心の編集体制(事務局の事務的協力)

2、議会情報の「完全公開」

●議会広報は会議録の普及版と認識し、要約はしても削除はしない

3、ありのままの、公正・客観的な記事

●編集委員による責任執筆と合議チエック(本人任せは避ける)

●編集者による評価選別、評論は一切しない＝事実のドキュメント

4、親しみやすい、読者の立場に立った紙面づくり

(技術的要素)
●適切な要約、やさしい簡潔な文章、内容のわかる

見出し、統一した正確な表記など、記事文の習得
●読みやすいレイアウト、写真の活用、用紙、印刷など

5、住民参加型の編集企画と記事

●対話のある、常設の企画を持つこと

●モニター委嘱やカメラマン委嘱など、編集に住民の参加を



後列は鞍手町議会広報委員の皆さん

一般質問

町営温泉3施設、レジオネラ菌 検出その責任と対応策は



川尻議員

質 従来の管理システムをどのように見直し、町民、利用者に安心した施設として利用してもらうのか。

答 町長 保健所から生命に影響はないという判断をいただいた。また健康被害も発生していないことから、安全が確認されるまでの間、営業を自粛することを議長に報告した。

質 重大な事件であり、町長自ら議会、町民に納得の行く説明をすべきではなかったのか。

答 町長 報告は11月29日に受けただけに営業を自粛せよと指示した。

質 町営温泉3施設からレジオネラ菌が検出され、11月30日から営業を自粛したと12月4日の熊日新聞で報道された。町長は、この事件をいつ受け、どのような指示をしたのか。

答 町長 職員に厳重注意と併せて、顛末書を提出させた。町長に対する責任については、町民が安心して利用できるように努力することが責任を果たすことだと思っている。

質 この事件に対する責任をどのように考えているのか。

答 町長 熊本県の所轄事項であるので、県条例に基づき、保健所の指導を受けて対応していく。少し研究させてほしい。

質 県条例の基、本町の各温泉施設条例にレジオネラ菌防止策を盛り込んだ条項を加えてはどうか。

答 町長 県の条例をもとに保健所の指導や専門機関と協議を重ね改善を行っている。提言のように今後は管理のレベルを高めていきたい。施設の改善については、財政事情もあるが、やらなければならないと思うている。



湯浦温泉センター

一般質問

芦北町の少子高齢化への 具体策は？



宮島議員

「わが国も人口減になる」と2年前の新聞で報道され、国、地方上げて、その対策の必要性、緊急性が叫ばれ、政府の「子どもと家族を応援する日本重点戦略検討会議」が打ち出された。本町の集中改革プランのⅢの基本方針では、人口減少が進み、平成42年には半減すると予想している。

質 町長は、これをどのように深刻に捉えているのか。

答 町長 少子化に伴う人口減少は、本町のみならず全国各自治体が抱える問題であり、経済産業、福祉、教育等、社会のあらゆる分野に極めて深刻な影響を与えてきており、地域全体の活力が失われ、社会システムの崩壊を招く恐れがあると危惧する。

企業誘致や企業支援等を行い雇用の場の確保を図りながら、定住人口の増加に努力したい。

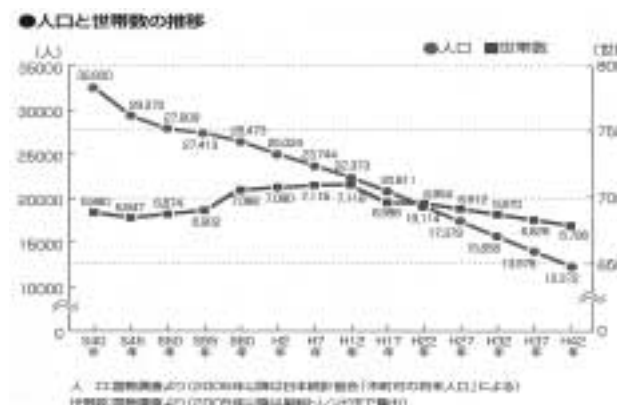
質 政府は全国的に体系化された「包括的な次世代育成支援」

町行政の第一の責任は、住民と滞在者の安全の確保にある。また、芦北町の都市計画道路地図には、三号線や橋脚の幅員がきちんと示されている。

質 湯浦地区には、幅員も狭く歩道のない極めて危険な場所がある。数年前、人身事故や車の事故もあったが、このことを町長はどのように認識しているのか。

答 町長 援の枠組みを構築する方針を打ち出したとの報道である。当面、本町として具体的に、どのような少子高齢化対策を講じていくのか。

答 町長 報道の件に対しては、正式な文書は送受されていない。少子化対策については、芦北町次世代育成支援行動計画。高齢者対策については、第3期芦北町老人保健福祉計画、介護保険事業計画に基づいて、事業の推進を図ってきたい。



答 町長 湯浦地区内に歩道のない場所が何カ所かあることは、承知している。

質 町長は上京の機会に、国土交通省等に陳情要請したことがあるのか。

答 町長 今回の質問に対しては、国土交通省熊本工務事務所八代

国道三号線湯浦地区の拡幅と 歩道設置への要請は？

質 維持出張所に要望すべき性格だと考えている。

質 当面歩道設置の見込があるのか。

答 町長 現在のところ、歩道設置の計画はない。

質 質問内容を踏まえて当面どう対処する考えであるのか。

答 町長 既設の河川公園内の遊歩道を利用できるが、横断歩道設置の方向で、今後、地元と合意形成を図りながら、国土交通省熊本工務事務所八代維持出張所及び芦北警察署等の関係機関との協議を進めていきたい。



国道3号線(外ヶ平地区)

町村議会広報研修会報告

11月6日

11月6日に梶町村議会議長の主催により、熊本県市町村自治会館で県内の町村で単独発行している25町村を対象に研修会が開催されました。

今回の研修会は、講演とパネルディスカッションが行われ、まず、熊本日日新聞社編集局NIE推進室長の越地真一郎氏(旧田浦町出身)による「新聞で磨こう議員力」という

演題で「情報社会とは何か」「相手に届く表現とは何か」などをテーマに、新聞を使つての講演が行われました。

また、広報紙作成における基本について、色んなエピソードを交えてユーモアのある講話は素晴らしいものでした。

次に第8回熊本県町村議会

広報コンクールにおいて、特選(西原村)及び入選受賞(大津町・南小国町)の委員長をパネリストに「よりよい議会広報紙づくりに向けて」のテーマでパネルディスカッションがありました。各委員長から自己紹介を兼ねて、広報紙の内容(記事編成・特集記事等)編集体制の方法、編集に当たって工夫

している点、苦労している点等の特色のある広報活動の紹介は、身近な問題として共感を呼ぶ内容の深いものでした。

その後、越地氏の進行により、広報を担当する議員から多くの質問等があり、実のある研修となりました。委員一同これからの広報のあり方を再度見つめなおす絶好の機会であり、「読みやすく、親しみやすい」広報紙づくりについての思いを新たにしました。

編集後記

成人の日。本町でも241名の新成人が「大人」の仲間入りを果たした。

沖縄県では、相も変わらず新成人が暴れたようであるが本町の成人式は、私語ひとつない厳肅な雰囲気の中で、二人の新成人が「二十歳の抱負」を発表した。

二人の発表内容に共通した点が「社会に貢献できる大人になること」という想いで、今の自身を見つめ、将来に目標を持った素晴らしい発表であった。

ちなみに、今年の新成人総数は135万人で21年ぶりに過去最少を記録したが、21年前に成人した「丙午」の私達の時とは違い、若者を取り囲む社会環境は依然として厳しい状況にある。「頑張れ！新成人。」

(元山)

議会のうごき

- 11月 2日 南九州西回り自動車道熊本県建設促進期成会後期要望活動(国土交通省九州地方整備局)
- 4日 第31回全国育樹祭(阿蘇みんなの森)
- 7~8日 関係省庁及び熊本県選出国會議員に対する後期要望活動
- 20日 地方自治法施行60周年記念式典
- 30日 第51回町村議会議長全国大会
- 12月 2日 真の地方財政の確立を目指す総決起大会
- 7日 熊本県町村議会議長第4回理事会
- 17日 水俣芦北広域行政事務組合議会
- 20日 12月定例議会(議案審議)
- 21日 12月定例議会(一般質問)
- 21日 広報特別委員会
- 1月 4日 賀詞交換会
- 14日 芦北町成人式
- 18日 広報特別委員会
- 23日 広報特別委員会
- 28日 熊本県町村議会議長会第5回理事会

町村議会広報研修会



講師の越地氏(旧田浦町出身)を囲んで

議会広報特別委員会

委員長	元山 秀志
副委員長	前田 徹一
委員	宮尾 秀行
白坂 康浩	宮島 安
古村 逸男	寺本 順一